審査会委員から事前に寄せられた準備書に対する意見と事業者見解

No	項目	質疑・意見の概要	事業者の見解	備考
1	全般	「環境影響評価準備書のあらまし」は今回の評価のエグゼクティブサマリーといった位置づけにあると思うのですが、個々の評価項目に対する評価結果は、例えば影響は小さいと評価します、といった書き方になっているため、今より良くなるのか悪くなるのかが分かりにくいと感じます。 準備書要約書の中に以下のような視点でのまとめ項目を追加できないでしょうか。 供用時と現状を比べて、評価項目ごとに現状より良くなる場合は○、悪くなる場合は×、変化が無い場合は－などで一覧表にし簡単な解説を書く。視点をどう考えるか難しい項目もあると思いますが、それは備考欄などに書いていただけると良いと思います。	「環境影響評価準備書のあらまし」は、住民の皆様に準備書の内容をより理解していただけるよう事業者が自主的に作成したものです。 環境影響の評価は、①事業者により実行可能な範囲内で本事業に係る環境影響が回避・低減されているか、②基準、目標等との整合が図られているかの2つの観点から行うこととなっておりますが、より簡単な文章表現として「影響は小さい」等の表現を用いています。 なお、ご指摘のように、現状より良くなるもの、悪くなるものについて記載した方がより分かりやすくなると考えますが、既存施設と新施設の比較、現状の稼働していない状態と供用時との比較、など比較対象が複数にわたること、良し悪しの程度を適切に表現することが簡便な表では難しいことなどから、住民に誤解を招く可能性もあるため、記載を控えさせていただきました。	

審査会委員から事前に寄せられた準備書に対する意見と事業者見解

No	項目	質疑・意見の概要	事業者の見解	備考
2	全般	温暖化がますます問題になっています。廃棄物発電設備があるようですので、環境負荷低減設備として、もっと前面に出して強調した方が良いと思います。	ごみ焼却による廃熱を利用した発電については、国でも重要な施策として位置付けられており、事業者としても温室効果ガス排出対策として強調すべきと考えております。 準備書においては、対象事業の内容（第2章）や温室効果ガスの予測・評価（11章）において、廃棄物発電施設の概要や本施設の温室効果ガスの負荷低減の内容を示すとともに、市内焼却施設全体で見た場合の現状からの削減の程度についても記載しております。市民の皆様にも、本取組を理解していただけるよう住民説明会などでも積極的に説明しております。	
3	全般	準備書やあらましの文章中にいろいろと数値と単位がでてきます。私の専門領域の化学関連では一般的に数値と単位の間は半角スペースを入れることになっています。これは IUPAC でも定められており世界共通です。恐らく自然科学系やエンジニアリングでも共通と思います。 例：250mg/L ⇒ 250 mg/L（スペース要） 0.6pg-TEQ/m³ ⇒ 0.6 pg-TEQ/m³（スペース要） 「30℃」や「73%」のように温度や百分率には、スペースを入れない。 文章作成の基準等（JIS, JAB, etc.）にも掲載されています。	千葉県では、公文書の分類、作成、保存及び廃棄に関する基準その他の公文書の管理に関し必要な事項を定めることにより、公文書の適正な管理を図ることを目的とする、「千葉県公文書管理規則」が定められています。また、具体的な文書事務の手法を記載した「千葉県文書事務の手引き」により公用文作成のルールが定められています。これに従い、準備書の作成を行っております。	

審査会委員から事前に寄せられた準備書に対する意見と事業者見解

No	項目	質疑・意見の概要	事業者の見解	備考
4	地質等	<u>準備書</u> <u>3-1-9 地形及び地質等の状況 P3-33 表 3-1.21</u> <u>P3-35 図 3-1.16</u> (1) 準備書 p3-33 の表 3-1.21 に主要な銘湧水（4 地点）が記載されているが、p3-35 の図 3-1.16 に当該地点が分かるように示すこと。 (2) 同銘湧水（4 地点）について、堆積物の状況を示すこと。	ご指摘いただいた点については、以下のとおりです。 (1) 第3章については、既存資料を整理しておりますが、具体的な湧水の位置までは公表されておられません。 (2) 湧水の位置が公表されていないため、当該地点の堆積物の状況については記載できない状況となっております。	
5	温室効果ガス等	<u>準備書要約書</u> <u>11-16 温室効果ガス等 P 222 表 11-16.1</u> 発電による温室効果ガス削減量は、準備書の 11-464 の表 11-16.2 の排出係数表の数値を使って計算されているようですが、この表の電気の使用に伴う排出係数を使うのは適切ではないように思います。すなわち国の長期エネルギー需給見通しなどによれば 2030 年の排出係数は 0.00037 t-CO₂/kwh になっているので、令和 13 年（2031 年）で 0.000555t-CO₂/kwh の数値を使うのは過大評価になります。	ご指摘のとおり、2030 年での電気の使用に伴う排出係数については、現状と異なる可能性があります。他の諸元についても同様に異なる可能性があるため、本図書においては、現時点での「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」及び「廃棄物処理部門における温室効果ガス排出抑制等指針マニュアル」に従い、事業者が実行可能な範囲で環境影響の回避・低減が行われているかという観点から予測・評価を行ったため適切と考えております。	